

# 一 米国ニ於ケル排日移民法成立問題 二〇七

二八六

ス云々ト結ヒ居リ候条  
右何等御参考マテ (省略)切抜相添及報告候

本信付属共送付先 在米大使

編註

五月三十一日米国大使館向ヒ側ノ赤坂区榎坂町一、海軍大佐井上勝純方ノ植込ミ中ニテ自殺ヲ遂ゲタル者アリ。  
ソノ遺書ニ「サイラス、イ、ウッズ閣下ヲ通ジテ亞米利加合衆國國民諸君ノ同情ニ訴フ」トアリ六月二十七日幣原外務大臣ヨリ埴原大使宛転送セラレタリ。

二〇七 十二月二十四日(着) 在米国吉田臨時代理大使ヨリ

幣原外務大臣宛(電報)

排日移民法制定後ノ米国内ノ対日風潮ニ付キ

報告ノ件

第八一六号

排日移民法制定當時東部諸新聞ノ大多数ハ殆ド一齊ニ対日本好感ヲ表明シタレドモ時ノ経過及変遷ニ伴ヒ曩ノ言議ヲ忘却シ日本移民問題ノ如キ彼等ノ関スル限ハ「クロースト・インシデント」トシテ取扱ヘルノ感アリ現ニ過般來 Federal Council of Churches ヲ中心トスル宗教団体及特殊ナル親日米人ノ移民法修正運動モ諸新聞ハ重要視セズ「ウッズ」前大使ノ移民法修正ヲ主張シタル書面ノ如キ稍諸新聞ノ注意

ヲ惹キタルモ東部諸新聞中論説又ハ批評ヲ掲ゲタルモノ無キ様ナリ之ニ反シ北京日露交渉ハ日本ニ於ケル反米親露ノ新政策ナリトセラレ埴原大使ノ帰朝中新大使ノ任命遲延ノ如キモ日本政府ノ暗黙ノ抗議トシテ新聞ノ注意ヲ惹キ居リタルモノノ如ク且「ゼネバ」日本全權ノ「プロトコール」修正提議ハ日本ニ於テ対米移民問題ニ付米国ト事ヲ構ヘントル準備ト解セラレタル為著シク言論界ヲ刺激シ更ニ近ク阿片會議ニ於ケル日本委員ノ態度ハ當國新聞界ニ於テ正解セラレ居ラズ寧ロ事毎ニ英、米ニ反抗スルモノトシテ一種ノ反感ヲ以テ迎ヘラレタルノ觀アリ

此時ニ際シ下院議員「ブリテン」氏ノ白人國會議提唱アリ右ニ対シテハ「ジョンソン」其他太平洋沿岸地方選出議員等先づ之ニ反対シ有力ナル諸新聞悉ク之ヲ攻撃又ハ冷評シタルノミナラズ大統領又製艦競争ヲ許サザル趣ノ声明ヲ數次各新聞ニ伝ヘテ議會内外ノ「アジティイター」ヲ抑ヘタルガ同時ニ松平大使ノ任命發表ニ關シテ前例無キ國務卿ノ「ステートメント」發表アリ大統領モ又該「ステートメント」ヲ裏書スル談話ヲ新聞記者ニ対シテ為セル等ノ為米國ノ識者ハ決シテ國際關係ニ付スル正当ナル判断ヲ誤ルモノ

大正十三年四月十八日

大阪府知事 中川 望

内務大臣 水野 鍊太郎殿

外務大臣男爵 松井 慶四郎殿

指定 府県長官 殿

排日移民法案ニ付スル対策等ニ關スル件

排日移民法案ハ單ナル政治問題タルニ止マラス忽チ經濟的影響深刻ナルモノアリトシテ當地商業會議所ニ於テハ之力対策ニ關シ講究シツツアル所ナルモ此際輕拳ヲ敢テスルトキハ大局上如何アラムカトノ懸念ヨリ容易ニ決セス外務省及在京商業會議所等ノ意向ヲ確メタル上方策ヲ樹立スヘキ意向ヲ有セルモノノ如シ尚本件ニ關シ関西日米協会幹事荒木和一ハ日本國民ノ態度ハ最モ自重ヲ要ストノ見地ヨリ大

木和一ハ日本國內及ビ米国以外ノ反応・反響  
要左ノ意向ヲ洩シ居レリ

関西日米協会幹事 荒木 和一

二〇八 四月十八日 中川大阪府知事ヨリ

松井外務大臣他宛

排日移民法案ニ付スル日米協会幹事ノ対策意見報告ノ件

外秘第三二七七号

一 米国ニ於ケル排日移民法成立問題 二〇八

二八七

## 一 米国ニ於ケル排日移民法成立問題 二〇九

二八八

執ラサル可カラス我関西日米協会ハ役員会ヲ開キ適當ナ  
ル対策ヲ講究スル筈ナルカ本件ハ固ヨリ我国ノ威信体面  
上最モ重要ナル問題ニシテ国民的叫ヒヲ大ニスルノ必要  
アリ然シ乍ラ單ニ演説会ヲ開キ激越ノ言論ヲ敢テシ聴衆  
ノ拍手喝采ヲ得ルカ如キ御祭騒ハ真ノ輿論ト謂フヘキニ  
非ス又如斯ハ其反響タルヤ恰モ埴原大使ノ抗議書ト同一  
轍ニ終リ太夕好マシカラサル結果ニ導クナラン何トナレ  
ハ米国民ハ大使ノ抗議ヲ以テ將ニ米国ヲ威迫スルモノナ  
リトノ感情ニ激セルモノナレハ此ノ際ニ於ケル輕率ナル  
態度ト言論ハ更ニ彼ニ対スル挑戦的示威ナリト解セラレ  
益々硬化セシムル虞アルヲ以テナリ

我が民ハ四匪ノ情勢ヨリ考察シ猶紳士的ニシテ而カモ根  
底アル國論ノ醸成ヲ促スニ非サレハ寧ロ沈黙ヲ守ルニ若  
カサルモノナリ故ニ暫ク慎重苟クモ動カサルノ慨ヲ示  
シ形勢ノ推移ヲ觀望スルノ外ナシト信ス

昨今一部ノ識者ニ於テ彼我ノ經濟的絶交ヲ唱導セル向ア  
ルモ是レ亦否ニシテ日本ニ取リテ拙劣ノ方策ナレハ此際  
堅実ナル輿論ノ沸騰ヲ期スルト共ニ適當ナル時期ヲ選ミ  
先ツ日米關係委員（半官半民ノ既設團体ナリト）ヲ渡米  
轍ニ終リ太夕好マシカラサル結果ニ導クナラン何トナレ  
ハ米国民ハ大使ノ抗議ヲ以テ將ニ米国ヲ威迫スルモノナ  
リトノ感情ニ激セルモノナレハ此ノ際ニ於ケル輕率ナル  
態度ト言論ハ更ニ彼ニ対スル挑戦的示威ナリト解セラレ  
益々硬化セシムル虞アルヲ以テナリ

セシメ彼地關係委員ト親シク膝ヲ交ヘテ談合ヲ遂クルト  
キハ從來外交文書ノ形式ヤ字句ニ拘泥激情セル米國識者  
ノ感情ヲモ或ハ容易ニ緩和相互ノ諒解ヲ生シ此ノ間ノ融  
和ヲ期待シ得ラレサルニ非サルヘシ云々

右及申（通）報候也

二〇九 四月十九日

中川大阪府知事ヨリ  
松井外務大臣他宛

排日法案ニ対スル在留外人ノ感想報告ノ件

外秘第三三五七号

大正十三年四月十九日

大阪府知事 中川 望

内務大臣 水野 錬太郎殿

外務大臣男爵 松井 慶四郎殿

指定府県長官 殿

排日法案ニ対スル在留外人ノ感想ニ關スル件

米國議會ニ上程通過シタル排日法案並ニ同法案ニ対スル埴  
原大使ノ發セル抗議文及首相ノステートメントニ対スル在  
留外人ノ感想左記ノ通リニ有之候条御参考迄ニ

右及申（通）報候也

如ク思ハルルモ由来加州ノ排日問題ハ政府モ相當手古摺リ  
居ルモノニシテ独リ加州ノ日本人ノ移民排斥ナラス全土ニ  
涉リテ歐州東洋何レヲ問ハス移民ニ対シテハ非常ニ恐怖ヲ  
感シ居リ其ノ結果ニ出テタルモノニシテ今回ノ法案モ日本  
ニ格別ニ侮蔑ノ意味ニテナサレタルモノトハ思ヘサルモ然  
シ日本トシテハ侮蔑的、紳士協約ヲ無視スル法案ト見ルモ  
詮方ナシ然シ要ハ対日ノ問題ト云フ政争カ中心トナリ居ル  
モノニ付キ今暫ク日本モ冷静ニ成行ヲ観測シテモヨキニ埴  
原大使カ抗議文ヲ政府ノ意ヲ享ケ米國政府ニ致シタルハ早  
計ノ憾アリ平和的ニ成行ヲ見テ居タランニハ或ハ現在ノ如  
キ結果ニ至ラスシテ解決ニ進ミタルヤモ知レス先年英國大  
使カ米國政府ニ対シ如此抗議ヲナシ上下ノ感情ヲ害シタル  
事例モアリ今回モ相當ニ朝野ノ喧シキ輿論トナル事ト思ハ  
ル而シテ本問題カ此ノ儘進行セハ前途ハ日本ニ取り經濟上  
憂慮スヘキモノアリト思ハルルモ遽ニ断シ難シ米國ノ新聞  
ハ相当ニ日本ニ同情ヲ有スルニ反シ日本ノ新聞カ合衆國ノ  
此ノ問題ニ対シ示威運動ヲ懲憲スルカ如キ論調アルモ挑戦  
的態度ヲ避ケ平和的ニ進ミタキモノナリ

然シ米國ノ上院下院共ニ政府ヨリ大ナル勢力ヲ有スルモノ  
ニ付襄ニウイルソン大統領カ議會ニ対シ関渉シ失敗シタル  
事例モアリ此問題ニ対シテハ政府ハ今如何共證術ナキモノ  
ノ如ク思ハル從テ大統領ハ承認スルノ外ナキモノト観測セ  
ラル

米國全体トシテ觀ル時ニハ排日問題ノ如キハ微少ノ問題ノ  
一 米国ニ於ケル排日移民法成立問題 二〇九

大阪毎日新聞記者

# 一 米国ニ於ケル排日移民法成立問題 二〇九

英國人

シドニー セシル ウィルソン

Sydney Cecil Wilson

日米国交關係ノ真相ニ通シテ居ラナイカ併シ世界ノ大勢ヨリ觀テ余ハ Senator Shortridge 氏ノ排日案ナルモノヲ不合理ノモノト思フ然ルニ埴原大使ノ抗議書ヲ導火線トシテ日米間ノ紛糾ヲ釀成シ國交ヲ傷ケタルハ其責任ヤ亦日米両國ニ在ルコトヲ斷言シテ憚ラヌモノテアル何トナレハ米国ハ正義人道ヲ無視スル該案ニ對シ猛省スル所カナケレハナラヌ又一方埴原大使ノ抗議文中末項ノ

“But the ambassadorial talk of grave consequences is the worst possible way to approach the American people, etc.”

ハ外交文書トシテ甚シク穩当ヲ欠クノ嫌カアル又米国政治家ノ野心勃々タル現状ニ於テ斯カル攻撃材料ヲ与ヘタルハ遺憾ノ至リニテ日本ノ立場トシテ万已ムヲ得サリシト云ヘ其ノ提出ノ時機タルヤ今ヨリシテ考フレハ火ヲ以テ火ヲ制シタル感ナキ能ハス余ハ該抗議文中ノ “Grave Consequence” (恐ルヘキ結果) ナル語ヲ以テ直チニ戦争ヲ意味ス

候補ノ人氣取的方便ノ為メ呼ハレタル此ノ語ガ例ヘ埴原大使ノ抗議書ニ憤慨シタルトハ謂ヘ直チニ今日アルヲ得セシメシコトハ故国ノ為メニ余ハ甚シク多恨トスル所デアル余ハ永ク害業界ニ在リ政界ト全ク没交渉テアルカラ別ニ之ニ對スル積極的意見ヲ持シナイカ要スルニ余ハ絶エス日米ノ親善ヲ切望シ又些サカ之ニ努力モシティタノテアルガ今日ニ至ツテハ只「遺憾」アルノミテアル

埴原大使ノ抗議書ノ趣旨モ Grave Consequence ナル字句

モ目下ノ日本ノ立場トシテ万已ムヲ得サルニ在ルコトヲ何故ニ全米国民力理解出来ナカツタノテアラウカ余ハ夫ノ埴原氏ノ文書ヲ寛容スルモノデアル況シヤ正義人道ヲ重ンスル故国々民テアル以上斯カル排日案ナルモノヲ通過セシムルニ至ツタノデアラウカ余ハ日米問題ニ就テ之レ以上述フルコトハ出來ナイ何トナレバ一語ハ一語ヨリシテ徒ラニ余ヲ痛心セシムルノミテアルカラテアル

吾カ関西日米協会モ亦何トカ対策ヲ考究スルテアラウカ吾等ノ此ノ際執ルヘキ道ハ只在留米国人一致シテ故国ノ親日派ト相呼応シ以テ該案ノ緩和ニ努メルノ外ハナイ余ハ日米間ノ此ノ重大ナル懸案ノ一日モ早ク除カレ從前ノ

# 二九〇

ルモノナリトノ米国人士ノ曲解ヲ非難スルモノテアツテ眞意ハ日本ノ Economical Grave Consequence (經濟界ノ悪影響?) ト解釈スルモノテアル

清浦首相ノ之レニ對スル Statement ハ其ノ真意トスル所奈辺ニ在ルカ判断ニ苦シムヲ以テ之ニ對スル批判モ出来ヌカ首相トシテハ今少シク堂々トシテ確固且ツ根拠アル声明ヲ為ス可キタラウ  
何レ本問題ハ益々難局ニ立到ルテアラウカ日本トシテハ正義人道ノ為メ之ヲ世界ノ公論ニ訴ヘ来ルヘキ第三國ノ調停ヲ迎ヘテ該法案ノ撤回ヲ期セネハナラスト思フ

米国人

シー・ヒル・マーマス 談

C. L. Thomas

連日來ノ日米兩国々交ノ急転惡化ニ就キ誠ニ痛心ニ堪エナイ遠ク異郷ニ在リテ決死的努力ノ結果漸ク今日ノ成功ヲ致セル在米日本人ト等シク遠ク故国ヲ離レテ此ノ土ニ生活セル余ト比較シテ考ヘ来レハ余ハ衷心ヨリ深刻ナル同情ヲ在米日本人ニ寄スノヲ客マス Anti-Japanese Bill (排日法案) !余ハ此ノ語ヲ聞クダニモ堪エ難イモノデアル最初議員立

如ク例ヘバ大震災當時ノ如ク再ヒ日米両国民ノ相接近センコトヲ切望シテ已マヌノデアル

農商務省大阪工業試験所技師

露国人ヴェイマルン博士助手

露国人セルゲエイズロガゾフ

四十八年

予ハ英文毎日ニ於テ該時局問題ヲ知リタルコトニテ日本國家トシテモ埴原大使ノ立場トシテモ該抗議書ヲ提出セラルヘキハ止ムヲ得サルコトト是認スヘキテアル元来米国人ハ感情ニ激シ易キ国民性ナルカ故ニ埴原大使ノ用ヒラレタル辞句 Grave Consequence ニ嚇ソトシテ該排日移民法案ヲ米国上院議院ガ翕然ト議決シタルモノテ埴原大使ノ用イラタル辞句ハ予ハ露国人ナルカ故ニ如何ナル真義ヲ有スルヤ否ヤ理解シ難キモ埴原大使トシテモ米国上院カ解シタルカ如キ「戦争ニ至ル」云々ト言フ意義ヲ以テ使用セラレタルモノトハ信シ得ナイ要スルニ辞句ノ如何寧ロ埴原大使ノ抗議書提出如何ニ係ハラス本年秋ニハ総選挙ヲ控ユル折柄ナレハ議員等カ西南部諸州民衆ノ得票ヲ得ンカタメニ該法案ニ共鳴スヘキ情勢ニ立至ツテ居タノテアル抗議書ノ内容

# 一 米国ニ於ケル排日移民法成立問題 二〇九

ハ至極尤モナルコトニテ日本ハ既ニワシントン条約ヲ遵守

セルニ米国黄金万能主義ヲ振廻シテ勝手氣儘ノ振舞ヲ為ス

ハ吾人局外国人トシテモ痛ク忌々敷コトニ感ス人口稠密ナ

ル処ヨリ人口稀薄ナル處ニ移住スルハ人道上至当ナリ日本

ハ年々人口増加スルニ僅カ百四十六名位ノ移民制限云々ノ

ワシントン条約ニテモ既ニ不条理ナリ日本トシテハ年々少

ナクトモ数千ノ移民ヲ世界各地ニ移住スルニアラサレハ將

來ノ國是立タサル折柄該法案ヲ米国上院カ議決シタルコト

ハ誠ニ日本ニトリテハ由々敷問題テアル該法案ハ恐ラク大

統領カ裁可スヘキモノト信ス是ハ大統領カ拒ムコトハ出来

得ナイ事情ニアリ何ントナレハ米国ハ人民アツテ大統領ア

リ大統領ハ人民ノ決議ニ服從スヘキ立場ニ置カレテアル曩

ニハーディング大統領ガ国際連盟加入云々拒否ニ於テモ其ノ

例アリ故ニ該法案ハ大統領カ裁可スヘキモノナリト信セラ

ル然シテ此次ニ來ル日米問題ハ在米日本人ノ市民権剥奪問

題ナルヘシ乍然日本ハ米国ニ侮辱サレテモ宜シク堅忍自重

シテ米国ヲシテ反省ヲ促シ戰争ナドノ手段ニ訴フルコトナ

キヲ庶幾フモノデアル

要視察露国人大阪外国语学校教師

ニコライ・アレクサンドロウイチ・ネブ  
スキ

自分ハ日米紳士協約並ニ其ノ後ノ成行ニ就テハ研究シ居ラ

サルカ今回問題トナリ居レルハ日本埴原大使ノ対米抗議書

中ノ所謂「重大ナル結果」云々ニ對スル解釈ニアルモノノ

如ク同字句ハ其ノ見解ニ依リ米国上院ノ解決セルカ如ク解

セラルケレトモコハ單ニ米国ガ排日法案ノ通過ヲ容易ナラ

シムル為ノ表面ノ理由ニ供シタノデアル世界ノ一等国ヲ以

テ自認セル米国トシテハ大人氣ナキ術策デアル米国ハ常々

平等ヲ口ニスルモ其ノ為シ来レル事実ニ於テハ白人種ハ人

類ノ最高人種ナリト自認シ黄、黒人種ヲ蔑視シ居レルハ彼

等ノ日常ノ態度其ノ他米国内ニ於ケル教育、交通等ノ施設

ヲ始メ娛樂設備ニ至ル迄人種的差別アルヲ見テモ其ノ言行

ノ一致セサルヲ證明シテ居ル翻テ考フルニ在米日本人ハ米

国市民権ヲ有スルモノト雖モ米国ノ風習ニ習ハス財ヲ得ル

コトノミニ汲タシ自己ノ利益ノ為ニハ飽迄権利ヲ主張シ

相当ノ蓄財ヲ得ハ本国ニ帰国シ米国民市民トシテノ義務ハ日

本国籍所有者ナル故ヲ以テ之ヲ履行セサルモノナリ如斯外

国（日本）人ノ多數入国（米国）ヲ默許スルニ於テハ米国

内務大臣 水野 錬太郎殿  
外務大臣男爵 松井 慶四郎殿  
陸軍大臣 宇垣 一成 殿  
各府県長官 殿

## 対米問題ニ関スル政談演説会開催ノ件

本月二十五日午後二時ヨリ富山市ニ於テ首題演説会ヲ開催セシニ聽衆約八百名ニシテ同五時閉会シタルカ当日ノ出席

弁士及演説要旨左ノ通ニ有之候

ハ自分ハ目下國家ヲ有セサルモノニ付キ國家ト国家トノ問題ハ自分ニハ關係ヲ有サナイ只自分ハ現在日本ニアリテ自分ノ商業ニ專念シ居ルヨリ職業以外ノ事ハ不知トロヲ諒シテ不語

以上

記

一一〇 四月二十六日 伊東富山県知事ヨリ  
松井外務大臣他宛

## 対米問題ニ關スル政談演説会ノ模様報告ノ件

特高秘第三四二二号

一、開会ノ辞 田上 嘉八郎  
一、大和民族ノ危機 内藤 隆  
(北陸タイムス記者)

今回米国ニ於テハ排日案カ上院下院共通過シ只大統領ノ調印カ残ツテ居ルノミテアル排日案ハ在米我国同胞十三万五

一 米国ニ於ケル排日移民法成立問題 二〇〇

富山県知事 伊東 喜八郎

## 一 米国ニ於ケル排日移民法成立問題 二一〇

二九四

千人ニ対シ多年苦心ト膏血ノ結晶タル土地財産ヲ放棄シテ撤退セヨト云フノテアツテ日本ハ昨年ノ大震災テ打撃ヲ受ケ軍事的行動ニ出ツル能ハストノ侮辱行動ニ外ナラスト断シ往年ノ日本移民学童排斥問題、紳士協約ノ由来経過ヲ述ヘ桑港埠頭ニ自由平等博愛ヲ叫ンテ居ル女神ノ像モ一ノ偽善ナリト難シ我々大和民族ハ此ノ一大危機ニ際リ大ニ奮起セサルヘカラス 云々

### 一、人種的偏見ニ非スシテ何ゾ

山森 利一

(報知新聞記者)

米国ハ明治十五年以来米国ノ開拓建設ノ為ニ努力シテ今日ニ至ツタ恩義アル日本人ニ対シ報ユルニ入國禁止ノ無慈悲ナル法律ヲ以テセリトテ既往ニ於ケル支那人印度人等ニ対スル圧迫ノ状況ヲ述へ平和ヤ博愛ハ米国ニアルト思フトナル誤リテアルト論難シ最後ニ今回ノ排日案通過モ其ノ一半ノ責ハ無為無能ナル我外務當局者ニ於テ負ハサルヘカラスト結フ

### 一、米国国防方針ト国民ノ覚悟

陸軍少将 山田 軍太郎

私ハ最近迄現役アツタカラ今日ノ様ナ政談演説会ニ出大事カナカツタカ今度ハ國ノ為ニ致方カナイト冒頭シ米国ノ軍備状態ハ正規軍九ヶ師団、護國軍十八ヶ師団予備軍二十ヶ師団アツテ動員ノ場合ハ二十七ヶ師団ヲ以テ國境ヲ守備シ其ノ援護ノ下ニ國家総動員ヲ為シ国内ヲ防備シ海軍ハ専ラ海上ニテ準備ヲナシ以テ攻勢ニ移ル順序ナル之ハ米国參謀總長ノ波シタル言テアツテ全々嘘テナイト思フ我国ノ国防ハ秘密テアルカラ申上ケマセヌ昨年ノ大震災ノ際ニ東京市中八十余ヶ所ヨリ一時ニ火カ出タノハ劇薬等ノ為テアツタモノモ少クナイト聞クカ此ノ劇薬ヨリモ飛行機ハ一層恐ルヘキモノテアル空中ヨリ投弾セハ直ニ火ヲ発スルカラテアリマス此ノ意味カラ國際飛行機等ノ來邦ヲ歓迎出来ナイト思フトテ現在各國ニ於ケル飛行機ノ拡張計画ヲ縷説シ更ニ日清、日露戰爭當時ノ状況昨秋大震災ノ際戒嚴令ノ布カレタル原因ヲ述へ現在我国ノ兵力ハ不足シテ居ルト断シ震災ノ損害ハ第一ニ復旧スヘキテアルカ対米問題ニ関シテハ何程國民力騒イテモ砲兵工廠ノ煙突カ充分ニ出ナイ様テハ駄目テアル将来ハ常備軍ノ立直シト空軍ノ建設完備トヲ図リ米国式ニシタイト思フトテ歐米各国ニ於ケル軍隊ノ

教育方針ヲ述へ最後ニ米国ハ日本ヲ排斥スルハ彼ノ大震災テ極度ニ損害ヲ蒙リマシタ弱点ニ付ケ入ツタノテアル政治モ外交モ凡テ力テナクテハナラヌ我ニ我々ハ臥薪嘗胆シテ國力ノ充実ヲ図リ以テ彼ノ移民問題ヲ解決セネハナリマセヌ

別記

### 決議

京都府知事 池松 時和(印)

内務大臣

水野 鍊太郎殿

外務大臣男爵

松井 慶四郎殿

対米問題ニ關スル件

這回北米合衆國ニ於ケル移民法問題ニ対シ管内人民ノ感想各種團体ノ態度及經濟界ノ影響等内査スルニ左記ノ通ニ候条此段及申報候也

記

### 一、一般民ノ感想

去ル本月十七日排日的移民法案ノ米国上院通過ノ報新聞

紙上ニ伝ハルヤ識者間ニ於テハ早クモ同國議會ノ態度ヲ非難シ我政府當局ノ採ルヘキ対策ニ就キ論議セラルニ至リシカ此ノ報漸ク汎ク伝ハルニ及ヒ一般民ニ在リテモ米国カ口ニ常ニ人種愛、平和人道主義等ヲ高唱シ之ヲ標語トシテ列國ニ蒞ミナカラ此ノ差別の非人道ノ態度ヤ如何ニ之全ク我國民ニ対スル侮蔑的待遇ノ甚シキモノナリ等トノロ吻ヲ漏ス者益多キ状況ニ在リ

### 二、在住外国人ノ感想

當市在住ノ一般外国人ニ在リテモ多ク日本人ニ同情シ該

大正十三年四月二十五日

富山市民大会

一一 四月二十七日

池松京都府知事ヨリ  
松井外務大臣他宛

### 米国移民法問題ニ対スル各界ノ態度報告ノ件

高秘第五二八号

一 米国ニ於ケル排日移民法成立問題 二一

二九五

## 一 米国ニ於ケル排日移民法成立問題

二九六

法案ニ反対ノ意ヲ洩シ居レルカ殊ニ米国人ニ在リテハ其ノ立場上寔ニ困惑シ居レルモノノ如ク母國上院ノ此ノ処置ニ対シ反対ノ意ヲ表シ「クーリッヂ」大統領カ該法案ヲ拒否セムコトヲ熱望シ居リ中ニハ基督教会牧師ノ名ヲ以テ大統領ニ対シ直接電請シタル者モアルカ如シ

### 三、各種団体ノ態度

仏教連合会京都支部ニ於テハ去ル本月二十三日「我日本仏教連合会ハ自由及人道上ヨリ移民法案ノ不裁可ヲ大統領閣下ニ熱望ス」トノ電報ヲ米国大統領宛發信シ本月二十八日ヨリ開催ノ同会全國評議員会ニ於テ之カ対策ヲ審議スル趣ニテ尚市内青年団ニ於テハ大学教授等ヲ聘シ該問題ニ対スル批判講演会ヲ開催スル向モアリ更ニ明二十一

八日ハ市内各新聞社ノ主催ニテ市民大会ヲ開催シ之カ対策ヲ決議シ米国大統領ニ対シ電報ヲ發スル趣キナルカ如シ

### 四、各政党員ノ態度

恰モ総選挙ヲ眼前ニ控ヘ運動ノ將ニ自熱化セムトスルノ際候補者ニ於テ該問題ニ対スル対策ヲ新ニ自己ノ政見ノ一部ニ加ヘテ論議スル者モアリ又府下第一選挙区候補者度此段申進候

本信写送付先 在支那公使、在奉天總領事  
外務大臣男爵 松井 慶四郎殿 總領事 山内 四郎（印）  
這回米国ニ於ケル排日問題ノ発生以来当地ノ支那新聞ハ何レモ該事件ニ関スル他地方ノ新聞記事ヲ転載スルノ外自主的ノ評論ヲモ掲記シタル少ナカラサリシカ今其ノ重ナル一、二ノ代表的評論ヲ別紙ノ通摘訳及報告候間御査閲相成度此段申進候

（別紙）

米国ノ排日問題ニ対スル哈爾賓支那新聞論調摘訳

一、四月二十五日晨光報所載——個人間ノ争ハ其個人ノミノ奮闘ニテ足ルモ一家ト一家トノ争ニ至リテハ一家中ノ者皆團結シテ之ニ当ラサレハ必ス負ヲ取ルヘシ省ト省國家ト国家トノ争モ亦同理ナリ  
州ト州ト相争ヒ人種ト人種ト相争フ際ニハ同人種力如何ニシテ敵ヲ禦クヘキカ他州カ我カ亞細亞州ヲ侵セハ亞細亞州ノ人民ハ当然同氣ヲ以テ他州ヲ敵トスヘク他種族カ我カ黄色種族ヲ欺カハ黄色人種タルモノハ当然力ヲ合セテ之ヲ禦クヘキテアル然ラスシテ同州相争ヒ同人種相争

塗見清ノ如キハ自己カ曾テ米国ニ学ヒシコトアル等ノ関係上同志社大学教授ノ名ヲ以テ直接大統領ニ対シ昨二十六日「移民法案ニ対シ拒否ノ態度ヲ採ラムコトヲ祈ル」旨電報ヲ発シタリ

### 五、経済界ノ影響

移民法案米国上院通過ノ報道新聞紙上ニ現ハレシ以來経済界就中株式界ニ影響シ諸株式稍下向ノ情勢ニ在ルハ事実ナルモ未タ巷間伝フルカ如キ著シキ影響ナク生糸及縮緬業者ニ在リテハ対米取引ノ将来ヲ予想シテ稍愁眉色アルモ現ニテハ大ナル影響ナキカ如ク唯米国製寫真器械其ノ他付属品等ノ如キ輸入品ニシテ市価俄ニ高騰セル物アルハ例外ナリ

二二 四月二十八日 在ハルビン山内總領事ヨリ

松井外務大臣宛

米国ノ排日問題ニ対スルハルビン地方ノ新聞

論調報告ノ件

公第二二三号

大正十三年四月二十八日

在哈爾賓

（五月八日接受）

闕セハ他州他種族ハ吾等ヲ侵シ吾等ヲ欺キテ極マリナカルヘシ近來米国ノ日本ニ対スル行為ハ異常ノ急進的ニシテ彼米国ハ日本ヲ併呑シテ米国ノ民ヲ日本ニ植ヘ付ケント欲スルノミナラス更ニ支那ヲモ併呑シ支那ニ植民セントルモノナリ依ツテ今日ノ場合中日合同シ親善ヲ實行シ同州同種ノ福利ヲ共ニ謀ルヘキナリ然レトモ日本ハ陰陥ニシテ又猜疑心深ク我カ支那ニ対シテ親善ノ眞誠ナキノミナラス却ツテ他州他種族ト同様ノ野心ヲ以テ支那ヲ侵シ支那ヲ欺キ居レリ南北満州ノ施設ハ一トシテ此種ノ色彩ヲ帶ハサルハナシ是筆者ハ米国近時ノ対日行為ニ対シテ我カ東亜将来ノ為ニ一哭ヲ禁シ得サル処ナリ云々一、四月二十五日國際協報所載——東隣国日本ハ明治維新以來支那ト戰ツテ勝チ再戰露國ニ勝利ヲ占メ三戰独逸ヲ平伏シ尚朝鮮ヲ合併シテ現ニテハ拓地植民ニ意ヲ注キ過去四十年間ニ於テ実ニ東洋ノ牛耳ヲ把握スルニ至レリ然ルニ昨年九月ノ天災ハ人心及財力ニ多大ノ創傷ヲ与ヘ輸入ハ輸出ニ超過シ非常ノ逆境ニアリ折柄勞農露西亞ハ却テ彼ニ侮辱ヲ与ヘ又今回ノ如キ米国ハ日本移民ノ入國ヲ阻止シタリ

# 一 米国ニ於ケル排日移民法成立問題 二二三

二九八

日本ト吾トハ近隣國ニシテ從来日本ノ有識者階級ハ進ン  
テ實際上ノ日支親善ヲ希望ス今回米國ノ排日即チ日本ノ

外患ハ吾内乱ニ似タリ同病相憐ムヘキナリ這次ノ排日ハ  
是又亞細亞全州ノ不幸ナリ然レトモ一國ノ盛衰ハ時運ナ

リ衰ハ又廳テ盛ニ復スヘキナリ今後支那國民ハ日本ノ危  
難ニ乘スルコトナク誠意ヲ以テ日本ト相提携シ以テ今次

ノ難闊ヲ無事通過セシメサルヘカラス云々

二二三 五月三日 在中國芳沢公使ヨリ  
松井外務大臣宛

「東方時報」所載排日移民法案ニ対スル汪中

國公使ノ意見報告ノ件

公第一八三号

大正十三年五月三日

在支那

特命全權公使 芳沢 謙吉（印）

外務大臣男爵 松井 麗四郎殿

米國ノ排日法案ニ対スル汪榮寶ノ意見報道ノ件

五月二日ノ東方時報ハ東京通信トシテ米國排日法案ニ対ス  
ル汪榮寶公使ノ意見ナルモノヲ掲載致居候ニ付御参考迄新

聞切（編註）茲ニ及送付候也  
(訳文) (仮訳文ナリ)

米國對日移民案ニ対スル汪榮寶ノ意見

「既ニ他人ノ日本移民排斥ヲ願ハスンハ即チ須ク

自ラ門戸ヲ開放シテ中國人ノ入境ヲ許スヘシ」

東京通信ニ依レハ米國議會ニ於ケル日本移民制限法案通過  
以來日本人ノ恐慌甚タシキ由ナルカ由來我カ中華民国ト日

米兩國トハ頗ル密接ナル關係ニ在リ最近駐日公使汪榮寶氏  
已ニ此間ノ意見ヲ發表スル所アリ今右ノ内日本人忠告ニ闇  
スル議論ヲ摘録スルニ左ノ如シ

米國ノ排日法案カ上院ヲ通過セルニ際シ支那ハ日本ニ対シ  
無限ノ同情ヲ寄スルモノナリ況ニ數十年前支那國民モ亦  
曾テ同様ノ苦痛ヲ受ケタルニ於テオヤ故ニ本件ニ対スル同

情ハ決シテ他國民ノ夫レニ比フヘキモノニアラス而シテ米  
國カ今次此種態度ヲ堅持スルニ至レルハ思フニ必ス已ムヲ  
得サルノ苦衷アルニ外ナラサルヘシ蓋シ本件ハ正義人道問

題ヨリ發生セルモノニ非スシテ實ニ生活問題ニ依リ發生セ  
ルモノナリ即チ中國ヨリ見レハ人民ノ生活問題ト称スルヲ  
得サルモ米國ニ在リテハ中國ニ対シ支那移民問題ノ論議ヲ

為スコト數十年ノ長期間ニ及ヒ一步一歩移民ヲ排斥シ遂ニ  
全部ノ排斥ヲ行ヒ在留ノ余地ナキニ至ラシメタルモノニシ  
テ恐ラクハ日本モ将来是ト同一ノ結果ニ至ルヘキコト想像  
ニ難カラス

支那ハ爾來再ヒ米國ニ移民セムコトヲ欲スルモ現ニ於テ  
ハ着手ノ余地ナシ予ハ思フ日本ハ今日必シモ何處ニ移民

スヘキカラ考慮シ居ラサルヘシ只支那ハ本々喜ンテ日本人  
ヲ歓迎スヘキモ日本側ニ於テ先ツ自ラ反省ヲ要スヘキ一事  
アリ即チ日本人ハ總テ口ニ日支親善ヲ説クモ動モスレハ支  
那人排斥ノ挙動アリ現ニ日本ハ今尚ホ中國勞働者ノ入國ヲ  
禁止シ居ルニアラスヤ昨年日本ハ大地震ニ遭ヒ危難ニ際会  
セルニ拘ラス尚且ツ支那ニ対シ門戸開放ノ実行ヲ肯セス此  
ヨリ推論スルニ日本ハ米國ニ対シ門戸開放ヲ希望スルニ先

チ先ツ第一ニ自ラ中國勞働者入國禁止ノ城壁ヲ撤廃スルヲ  
要ス而シテ後更ニ正義人道ヲ基礎トシ米國ニ向テ門戸開放  
及排日法案ノ廢除ヲ要求スルニ於テハ能ク其效果ヲ收ムル

ヲ得ヘシ現今日本ハ自ラ正義ヲ論セス人道ヲ弁ヘスシテ他  
國ニ対シ正義ノ保持ヲ要求シ居レリ米國ニ於テ目下日本ニ  
對シ此種事件ノ發生アルモ支那ノ対米政策ハ何等変更ノ必

二二四 五月十二日 在簡島鈴木總領事ヨリ  
松井外務大臣宛

排日移民法ニ対スル間島方面一般ノ感想等ニ

編註 「汪榮寶對日移民案之意見」ト題スル原文ヲ省略シ訳文

ノミヲ掲載セリ

二二五 五月十二日 在簡島鈴木總領事ヨリ  
松井外務大臣宛

排日移民法ニ対スル間島方面一般ノ感想等ニ

機密第一二八号

一 米國ニ於ケル排日移民法成立問題 二二四

二九九

# 一 米国ニ於ケル排日移民法成立問題 一一四

在間島

總領事 鈴木 要太郎（印）

外務大臣男爵 松井 慶四郎殿

米国ノ排日移民法案通過ニ對スル間島方面一般ノ

感想等ニ關スル件

本件ニ關シ査察シタル所概要左ノ如シ

## 一、内地人

米国ノ排日移民法案ヲ通過セシメタルハ寧ロ当然ノ帰結ニシテ今日アルヘキヲ予想セスシテ彼カ仮面ノ親善、口頭ノ平和ニ隨喜シタル愚ヲ自ラ恥ツヘキナリ彼ノ埴原大使ノ公文ニ難題ヲ挾ムカ如キハ偶々以テ排日議員ノ逆用ニ利セラレタルニ過キシテ恰モ家康カ鐘銘ニ難癖ヲ付ケタルニ相以タルモノニシテ原因ハ遠ク過去ニ存シ早晚此ノ結果ヲ見ルヘキ筋書ニ在リタルヲ察セラルヘカラサルナリ

平和會議ノ美名ノ下ニ軍備制限ヲ主唱シテ先ツ当面ノ仮想敵タル日本ノ制海力ヲ殺キ大震災ノ傷痍ニヨリ遽ニ起ツ能ハサルノ足許ヲ見透カシ敢テ此ノ舉ニ出ツ今ニシテ

繩羊ノ皮ヲ被ヘル虎狼タルヲ知リタルハ既ニ遲ク且ツ之

此ノ結果ヲ見ルヘキ筋書ニ在リタルヲ察セラルヘカラサルナリ

ナルモノアルヤヲ虞ル國際間ノ問題ハ凡テ實力ニヨルノ外解決ノ途ナキヲ痛切ニ感スルモノナリ云々

〔回〕不逞鮮人——米国ノ排日ハ延テ世界ノ排日的氣勢ヲ煽

ル原動力ト為ルヘク今後対露、對支外交モ此ノ点ニ於

テ日本ハ不利ノ位置ニ立ツヘク要スルニ日本ノ侵略主義ハ之ニヨリテ一大頓挫ヲ來シタルヲ以テ鋒芒ハ必ス

露支領ニ向シテ出現スルニ至ルヘシ日米国交ノ斷絶等

ハ之力為メ遽ニ生セサルヘキモ将来日本ハ必ス報復手

段ニ出ツルコトアルヘク独立運動ノ好機或ハ速ヤカニ

到來スルヤ測ラレス今ヤ日本ハ有ラユル國家及人種ヨリ排斥セラレ窮状寧ロ憐ムヘキナリ云々

## 三、支那人

米国ニ於ケル排日ハ黃色人種一般ニ對スル排斥トシテ該法案ノ撤回ヲ望ム所ナルモ現状ニ於テハ之ヲ如何トモ為ス能ハサルヘシ現時日本カ排斥ヲ受クルハ寔ニモノロ一主義ノ時代錯誤ト謂フヘク日本カ從来我國ニ對シ常ニ侵略主義ヲ以テ臨ミ來リシヲ以テ好感ヲ有セサルモ之ヲ以テ快哉ヲ叫フモノニアラス今後日本カ一切ノ野心ヲ捨テ真ニ東洋平和ノ為メ亞細亞民族興隆ノ為メ努力スルニ於

テハ堅ク握手スルヲ拒マサル所ナリ云々

右御参考迄及報告候

本信写送付先 北京公使、奉天、吉林、哈爾賓總領事

朝鮮總督、咸北知事、羅南憲兵隊長

朝鮮軍參謀長、第十九師團參謀長

各分館主任同署長

二二五 五月十六日 松井外務大臣ヨリ  
在米國埴原大使宛（電報）  
排日移民法問題ニ對スル本邦輿論概報ノ件

第二二〇号

目下本邦各新聞ハ總選舉問題ニ紙面ヲ埋メ居リ移民問題ニ關スル論議稍々下火ノ傾向アルカ一般ノ視聽ハ日ナラスシテ再ビ移民問題ニ向ケラレ殊ニ移民法案成立ヲ見ハ更ニ輿論ノ激發ヲ見ルヘキハ想像ニ難カラス將亦昨今本邦各地、朝鮮、滿州等ニ於ケル諸種ノ團体市民等ハ今回ノ排日移民法案ニ關シ大会ヲ催シ移民法案ノ正義人道ニ悖レルヲ指摘シ米國大統領ノ之ニ對スル拒否權行使ヲ要望シ米國市民ノ猛省ヲ促スト同時ニ一方政府ニ對シ移民法案阻止方ニ付極力努力セソコトヲ希望シ居レリ其ノ主ナルモノヲ挙クレハ

三〇〇

ヲ罵リ尚反省ヲ促サントスルカ如キハ余リニ不明ノ愚ヲ

自ラ表示スルモノニシテ結局ハ泣言ニ過キサルヘシ仮令

一時的之カ実施ヲ延期又ハ緩和スルヲ得タリトスルモ必

ス決裂ノ期アルヲ覺悟セサルヘカラス

今ヤ日本ハ對米、對露、對支外交ノ難局ニ立チ而モ朝鮮問題及國內思想、労働問題等内憂外患交々臻リ八方塞力リノ狀態ニ在リ此際國民ハ大イニ覺醒シテ実ヨリモ花ノ外交方針ヲ一変シテ先ツ滿蒙方面ニ經濟的勢力ヲ扶殖シ

狀況ニヨリテハ列強ニ先チテ露國ト握リ以テ大陸發展ノ

対策ヲ講スルヲ急務トスヘシ外侮ハ結局國力ノ微弱ナル

ニ於テハ穩忍スルノ外如何トモスル能ハサルナリ國力ノ

培養ハ万事ヲ解決スル唯一ノ途ナリト自覺シ國民的氣力

ヲ興振スルノ刺激トシテ之ヲ利用セハ反ツテ禍ヲ転シテ

福ヲ致スヲ得ヘシ云々

## 二、朝鮮人

〔1〕一般鮮人——日本ハ如何ニ強国ト雖モ其ノ武力、經

濟力ニ對シテハ到底米國ノ敵ニアラサルヘク故ニ砲火

相交ユルカ如キハ現状ニ於テ實現セサルヘシ只之ニ因

リテ鮮内同胞ノ經濟及生活ニ脅威ヲ受クルコト一層大

一 米国ニ於ケル排日移民法成立問題 二一六

左ノ如シ

神戸市民大会、八幡市民大会、大阪市民大会、奈良市民大会、富山市民大会、函館市民大会、長崎市民大会、京都市民大会、滋賀県民大会、埼玉県民大会、広島県民大会、和歌山県民大会、岡山県民大会、鹿児島國際平和協会、鹿児島県日米会、東京商業會議所、日本全国教育者大会、立憲政友会本部、官業労働同盟中央委員会、仏教連合会、

二一六 六月三日

安河内神奈川県知事ヨリ  
松井外務大臣他宛

米国排日法案ニ対スル海軍部内ノ意向ニ関ス

ル件

神高秘収第五五五九号

大正十三年六月三日

神奈川県知事 安河内 麻吉	水野 錬太郎殿	外務大臣男爵 松井 慶四郎殿	陸軍大臣 宇垣 一成 殿	海軍大臣 村上 格一 殿
---------------	---------	----------------	--------------	--------------

ルモノニシテ殊ニ米国海軍部内ニハ「スエズ」運河ヲ無事戰艦ヲ航行セシムヘキ技倆ヲ有スル軍人アラサルヲ以テ仮ニ戰端ヲ開始スルトセハ恐ラク今日以上ノ好機會ハアラサルヘク万一此ノ機ヲ失スルニ於テハ今後十年間ニハ米国ハ有ユル戰闘準備ヲ整頓シ之ニ備フル處アルヘキヲ以テ我帝國ノ作戦上最モ困難ナルヘキ状況ヲ呈スヘキヲ以テ宜シク此ノ機会ニ於テ日米開戦ヲ断行シ以テ禍根ヲ一掃スヘシト最モ強硬ナル主義論ヲ主張シツツアル状況ニ有之右御参考迄ニ及申報候也

二一七 六月五日(着) 在英國林大使ヨリ  
松井外務大臣宛(電報)

排日移民問題ニ論及セル「タイムス」社説要

領報告ノ件

第三三〇号

四日「タイムス」ハ「華府ト東京」ト題スル社説ヲ掲ケ日本対米抗議ハ米国新移民法カ正義及公正ノ原則ニ背馳セルコト及一九一一年通商條約ノ精神ニ悖レルコトノ二個ノ根拠ニ基ケル處前者ニ対スル米国主張ハ新移民法ハ寧ロ紳士協約ニ依リ日本ノ享有セル特典ヲ廢シ他ノ東洋人種ト同一

一 米国ニ於ケル排日移民法成立問題 二一七

三〇二

米国排日法案ニ対スル海軍部内ノ意向ニ関スル

件

当面外交ノ重大問題タル米国上下両院ヲ通過シ大統領之ニ署名シ来ル七月一日ヨリ実施セラルヘキ排日法案ニ対スル管下横須賀市ニ於ケル海軍部内ノ意向ヲ内偵スルニ堀口海軍鎮守府長官ヲ首メ將校幹部ニ於テハ曩ニ米国ハ華府會議ニ於テ自ラ軍備縮小ヲ主張シ世界ノ平和ヲ唱ヘナカラ其ノ裏面ニ於テ熾ニ航空隊ヲ拡張シ軍備ヲ整頓シツツアルハ世界ノ和平ヲ自ラ攪乱スル横暴ノ態度ニシテ実ニ憤慨ニ堪ヘサル処ナリ加之ナラス今回米国カ上下両院ヲ通過シ大統領之ニ署名シタル排日法案ノ如キハ実ニ非人道的ニシテ人類共存ノ見地ヨリスルモ看過スヘカラサルモノニシテ又國家的方面ヨリ觀察スルニ我カ光輝アル帝国ヲ侮辱シタル傲慢不遜ノ態度ナリ故ニ米国ニ於テハ最モ強硬ナル抗議ヲ為シ彼ノ矛盾撞着セル態度ヲ反省セシメ若シ彼ニシテ肯セサルニ於テハ須ラク正義人道ノ名ニ於テ干戈ヲ交ユルモ辞セサルヘシ人或ハ之カ戰闘力ニ闊シ云為スルモノアルモ我帝国艦隊ト米国艦隊トノ戰闘力ノ比例ハ日本五米国六ノ割合ナルモ其ノ實力ニ至リテハ優ニ米国ヲ凌駕スル潛勢力ヲ有ス

程度ニ置キタルモノニシテ差別的ト称スルヲ得ストナスニアルモ日本国民ノ憤ル処ハ將ニ其ノ他ノ東洋人種ト同一地位ニ置カレタル点ニ存シ日本カ東洋諸國ノ間ニ占ムル独歩ノ地位ニ鑑ミ其ノ米国カ他ノ東洋人種トノ間ニ差別ヲ認メサルヲ憤激スルコト人種的理由ニ依ル東洋人一般排斥ノ場合ト異ナラサル可キハ容易ニ諒解シ得ヘキ処ナリ通商條約ニ関スル点ニ就テハ日本抗議及同條約成文ヲ得ルニアラサレハ判定シ難キモ該條約第一条ノ規定ニ照ラシ日本ニ於テ同條約カ法律的事実ニ於テハ毀損セラレサル迄モ其ノ精神ニ於テハ侵害セラレタ(不明)得ヘキモノノ如シ新法律ニ於テモ特定階級ノ日本人ハ米国ニ入國シ得ヘク其ノ人數及種類ハ紳士協定ニ依ル場合ト實際上左迄差異ナカル可キヲ以テ該協定ニシテ存続シ得タランニハ日本国民ノ感情ヲ損スルコトナキヲ得タリシナル可シト述ヘ日本人憤激ノ状況日米關係ノ悪化ヲ叙シ米国海軍予算ニ言及シ加奈陀、濠州ニ於ケル日本移民問題ノ趨勢ヲ説キ日本政府ハ伯刺西爾行移民ニ補助ヲ与ヘ又亞細亞大陸ニハ人口稀薄ノ地域存スルモ氣候若シクハ經濟上ノ關係ヨリシテ人氣少キコトヲ述ヘ同問題ハ啻ニ未解決ナルノミナラス今後益々重大ヲ加ヘム

三〇三

### 一 米国ニ於ケル排日移民法成立問題 二一八

三〇四

ト説キ之ニ関連（脱?）英國政府カ新嘉坡海軍根拠地建設ノ為蒐集シタルモノト察セラルル不用具ノ売却ヲ廣告シツアリトノ Straits Times 所報ニ遺憾ノ意ヲ表シ居レリ切抜郵送スヘシ

（脱）転電セリ

~~~~~  
在英國林大使ヨリ

二一八 六月十二日（着） 币原外務大臣宛（電報）

日本移民問題ニ関スル英國諸新聞ノ論調二付

\*報告ノ件

第三四六号

八日ノ各新聞ハ帝国「ホテル」ニ於ケル排米示威運動及清浦内閣辞職ノ報道ヲ掲グルト同時ニ政府ノ対米抗議書ノ全文又ハ摘要ヲ載セ日米国交危機ニ迫レリト謂フ見出シヲシタモノモアッタ更ニ九日ノ各新聞ニハ青山ニ於ケル追悼式ニ関スル八日発路透通信掲載セラレタガ新聞ハ何レモ其問題ニ対シ不偏ノ態度ヲ執シテ居ル即チ「モーニング・ポスト」ハ九日本移民法ハ大國ト成ツタ日本ノ体面ヲ傷付ケルモノデアル日本移民問題ハ元來ニ於ケル民族葛藤ノ一表現ニ過ギナイ若シ吾人ガ此ノ葛藤ヲ注意シテ処理シナケレバ

世界ハ再び流血ヲ見ルデアロウ日本ノ不平モ尤モダガ米国

ハ自國民ノ經濟的安定ヲ威脅スペキ和平的侵略ヲ防遏スル権利ヲ持ツテ居ル蓋シ此ノ権利ハ總テノ自愛的國家殊ニ日本カ標榜鼓吹シテ居ル所アルト論ジ

十日ノ「マンチエスター・ガーディアン」ハ米国政治家ハ些少ノ利益ヲ擁護スル為ニ緊密ナル貿易關係ヲ有シ且米国ノ極東政策成功上其友誼ニ依頼シテ居ル隣邦ノ憤怒ヲ買ツタケレドモ他ノ方面カラ見レバ日本ハ移民ノ必要ニ迫ラレ又米國ハ各種移民ヲ同化シテ国民性ト文化ヲ樹立シナケレバナラナイ奇妙ナ立場ニ在ル尤モ東洋人ガ同化スルト謂フコトハ一寸考へ憎イト論ジ九日ノ「デーリー・メール」ハ

対米抗議書ニ依リ日本カ幸ニモ米国トノ国交断絶ヲ希望シテ居ナイコトハ窺ハレルガ日本國民ノ義憤ハ東京ニ於ケル排米示威運動ニ於テ遺憾ナク発揮セラレタ去リ乍ラ日米両國ニ在ル多數有識者ハ米國ノ利益ヲ保全スルト同時ニ日本ノ体面ヲモ尊重スル解決案ノ發見ニ努力スルデアロウト論ジテ居ル

米ヘ転電セリ

二一九 六月二十二日 小原新潟県知事ヨリ

幣原外務大臣宛

対米問題ニ対スル県下ノ反応状況報告ノ件

高秘發第二一一号

大正十三年六月二十二日

新潟県知事 小原 新三（印）

内務大臣 若槻 礼次郎殿

外務大臣 幣原 喜重郎殿

対米問題ニ関スル件

標記ノ件ニ關シテハ特ニ御通牒ノ次第モ有之本問題ニ関スル県民ノ意向反響等ニ關シテハ慎重注意ヲ払ヒ奇激ノ行動ニ出ツルノ徒無キヲ期シツツアル次第ナルカ目下県内ニ於ケル情況左記ノ通ニ有之候条為参考及申報候也

記

一、県下発行新聞紙ノ論調

米国ニ於ケル排日移民法案ノ通過ニ對シ県下ニ於ケル論機関ハ当初单ニ事實ノ報道ニ止マリ敢テ批判、攻撃、対策等ニ關スル所論ヲ掲載スルモノ無カリシカ最近該問題カ全国的輿論トナリ國民ノ義憤漸ク高潮シ来ルニ及ビ

一 米国ニ於ケル排日移民法成立問題 二一九

時ニ之ニ關スル社説ヲ掲載シ正義人道博愛共存ヲ高唱スル米国カ排日移民法案ヲ制定シ以テ有色人種排斥セムトスルカ如キハ啻二人種的惡感情ヲ挑発スルノミナラス正義人道ニ悖戾シ國際情誼ヲ無視シタル行為ニシテ光輝アル帝國ノ名譽ト威信ニ關スルトコロ大ナルヲ以テ宜シク政府當局ヲ鞭撻シ強硬ナル外交方針ヲ採ラシメ以テ米國ノ反省ヲ促ササルヘカラス又一面各自カ奮勵努力シテ國力ノ充実ヲ計リ以テ有事ニ備ヘサルヘカラストシ論調概シテ穩健ニシテ奇矯過激ノ筆端ニ出ツルモノノ無ク反ツテ國民ノ輕舉盲動ヲ諒メ殊ニ米貨排斥ニ關シテハ新潟毎日新聞其他二三ノ新聞紙ハ米國ノ排日ニ對スル感情ニ駆ラレ米貨排斥ヲ為スカ如キハ自ラ經濟上ノ利益ヲ棄棄スル結果トナルノミナラス之力為ニ益々米國ノ反感ヲ助長セシメ兩國間ノ國交ヲ陥惡ニ導クモノナリトテ其非ヲ説キ又在留米人ニ對スル暴行又ハ之カ放逐運動ノ如キ暴ニ酬ユルニ暴ヲ以テスルモノニシテ大國民ノ執ルヘキ態度ニ非スト為シ其不可ナルヲ説キ感情ニ走リテ國策ニ累ヲ及ホス如キ輕舉ハ之ヲ慎マサルヘカラスト論セリ

三〇五

## 一 米国ニ於ケル排日移民法成立問題 二一九

三〇六

米国ニ於ケル排日移民法案議会通過前ニ在リテハ主トシテ有識階級者ニ於テ本問題ノ推移ニ関シ憂慮ノ念ヲ以テ張目シ只管通過ノ不可能ニ畢ラムコトヲ希望セシニ過キトスルニ至リ各地ニ於テ暴米膺懲ノ声起リ殊ニ最近無援孤立ノ在米邦人ニ対スル米人ノ殺傷暴行事件カ頻々新聞紙ニ依リテ報道サルルニ及ヒ一般県民ノ排米熱漸ク擡頭シ來リ漸次熾烈ニ赴カムトスルノ形勢ニ在リ殊ニ思慮未タ定ラス感情ニ激シ易キ青年学生等ノニ刺戟サルル者多キ模様ニシテ時々開催ヲ見ル青年雄弁大会学生演説会等ニ於テ好ンテ演題ヲ対米問題ニ求メ米国民ノ不正義不人道ニ攻撃ノ舌鋒ヲ放ツカ如キ以テ反米感情ノ一端ヲ覗フニ足ラム又県下ニ在リテモ市部ト郡部トハ自ラ其反米熱ノ程度ニ濃淡アリ即チ郡部ニ於テハ多ク農民ニシテ新聞紙等ヲ購読スル者尠ナキ為外交事情ニ疎ク且ツ自己ノ生活ト関渉スルトコロ尠ナキヲ以テ多ク無関心ノ態度ヲ執ルニ反シ市部ニ於ケル反米熱ハ相當著キモノアリ目下頻リニ巷間ノ話頭ニ上リ車夫馬丁ト雖之ヲ口ニセサルモノナキ情況ニ在リト雖未タ注意スヘキ事端ノ發生ヲ見ス

レハ之ニ応戦シテ暴米ヲ膺懲セサルヘカラスト直チニ戦争ヲ予想シテ慷慨悲憤ノ言ヲ洩ラスモノナキニ非スト雖モ心アル者ハ此際隱忍自重徐ロニ國力ノ充実ヲ計リ膺懲ノ機ヲ他日ニ求メムトノ意向ヲ有セリ

### 四、外国人ノ感想

新潟市ニ在住スル宣教師米人「エロンダウンズ」ハ曰ク  
米国ニ於テ排日ノ声起リタル原因ハ諸種アルヘキモ要ス  
ルニ加州ニ於ケル日本人労働者ノ為ニ米人労働者カ圧迫  
サレタルコトカ主因ナルヘシ又排日ハ米国全土ノ声ナル  
カ如キモコハ單ニ加州ニ於ケル三百万人位ノ純米國主義  
ヲ主張セル者ノ声ニシテ米国全土ノ一致セル声ニ非ス余  
ハ排日案ヲ議決セル吾カ立法部ノ態度ヲ甚タ遺憾トスル  
モノナリ故ニ曩ニ在日本基督協会ヨリ日本駐劄米国大使  
ニ対シ本法案ノ撤回ヲ求ヌタルコト數次ナリシカ大使モ  
其意ヲ諒シ帰国情シテ目下政府ト交渉中ナリ最近ノ情報ニ  
依レハ一旦通過セル法案ノ改正ヲ為スハ不可能ナルモ別ニ紳士的協約ヲ以テ排日ヲ緩和スルニ努ムヘシトノコトナリ故ニ此際日本國民ノ自重サレンコトヲ望ム云々其ノ他在留外国人等ニ付其意向ヲ内査セシモ特ニ記スヘキモ

### 一 米国ニ於ケル排日移民法成立問題 二一〇

只本月二十日新潟市時計商佐藤定吉カ對米反感ノ漸次高

潮シ来ルノ情勢ニ鑑ミ誤解ヲ恨レ從前ヨリ本県商品陳列館ニ見本トシテ縱覽ニ供シアリシ米国製金属製品ヲ自發的ニ撤去セル事實アリ又新潟市常設活動写真館ニ在リテハ何レモ自發的ニ又ハ本社ノ指揮ニ従ヒ七月一日以降米

市ニ於テハ同市吳服町吉休雜貨商店カ店頭ニ掲ケアリシ「米国エバーレー会社製定全剃刀替刀着荷」ト書シタル廣告ヲ本月十二日夜何者カ剝取シタル事實アルニ過キ

スシテ米貨排斥ノ如キ之ヲ實行シアルモノナキト共ニ特ニ対米問題ニ關スル講演会宣伝並之カ為ニ団体ヲ組織セルモノ等アルヲ認メス

### 三、在郷軍人ノ意向

華府會議ニ於テ米国カ軍縮ヲ提議シタル真ノ目的ハ日本ノ軍備ヲ縮小セシメ其虚ニ乘シ挑戦セムトスルノ魂胆ニ外ナラス殊ニ吾國カ客年ノ震災ニ依リ國力ニ相当ノ影響アリシヲ奇貨トシ今回正義人道ヲ無視シタル排日法案ヲ通過セシメタル暴状ハ実ニ言語道断ト謂ハサルヘカラス畢竟是レ米国カ帝國々力ノ疲弊ニ乘シ挑戦來リシモノナ

ノナシ 以上

二二〇 六月二十三日 山脇愛知県知事ヨリ  
幣原外務大臣他宛

### 対米問題ニ關スル在郷軍人大会開催協議会ノ

#### 模様報告ノ件

特秘収外第一二九五号

大正十三年六月二十三日

愛知県知事 山脇 春樹(印)

内務大臣 若槻 礼次郎殿  
外務大臣 幣原 喜重郎殿  
警視総監 太田 政弘殿  
神奈川、大阪、京都、兵庫 各府県知事殿  
対米問題ニ關スル在郷軍人大会開催  
協議会開催ノ件

既報(六月十九日付特秘収外第一二八一號)ノ如ク名古屋在郷軍人大会開催ニ關スル協議會ハ本月二十一日午後五時ヨリ名古屋市東区布池町奉安殿ニ於テ開催セリ來会名古屋市各区在郷軍人連合分會長四名、北斗會長大津少將、以下四名、名古屋連隊区司令官稻垣歩兵大佐及司令部員二名計

# 一 米国ニ於ケル排日移民法成立問題 二二〇

三〇八

十二名ニシテ西区連合分會長箕形歩兵大佐開会ヲ宣シ「今度開催セムトスル臨時在郷軍人大会ハ実ニ吾人ノ使命ニシテ輓近中心ヲ失ヒ浮華文弱ニ流ル渦渦タル社會思想ヲ一蹴シ一般民ヲ覺醒シ益々在郷軍人ノ結束ヲ固クシ以テ名古屋市民ニ行動ノ憑拠ヲ与フルノ目的ニシテ別紙宣言書ニ基キ実施セントス之ニ就テハ從来常ニ必要ヲ認メ來リシ所ナリシモ其機ヲ得ス本日ニ至リシカコノ好機ヲ得テ此ノ舉ニ出ツルモノトス宜シク賛來セラレタキ希望ヲ有ス」ト述べ次テ協議ニ入り左記ノ如ク決定シ午後七時半散会セリ右及申（通）報候也

## 記

### 協議決定事項

#### 1 趣旨ニ就テ

趣旨ニ就テハ根本議論二ツニ分レ即チ一ハ米國ノ排日移民法案通過ノタメニ特別ニ國民ノ義憤ヲ促ス目的ヲ有スルモノト他ハ近時國民思想一般ニ情弱ニ流レアルニ際シ覺醒ヲ促スヘク在郷軍人ノ使命ヲ感知シアリシ折柄排日移民法實施開始日ノ好機ヲ利用シ平日ノ宿望ヲ達成セントスルニ在ルトノ二ナリ之ヲ要スルニ前者

キ実施セントス之ニ就テハ從来常ニ必要ヲ認メ來リシ所ナリシモ其機ヲ得ス本日ニ至リシカコノ好機ヲ得テ此ノ舉ニ出ツルモノトス宜シク賛來セラレタキ希望ヲ有ス」ト述べ次テ協議ニ入り左記ノ如ク決定シ午後七時半散会セリ右及申（通）報候也

### 2 宣言文

宣言文ハ其ノ会ノ目的ヲ發表スル重大ナルモノナリトシ原案ヲ可トスルモノ之ヲ過激ナリトスルモノハ全ク別ニ作成ヲ要スヘシ等ノ議論百出シ可成長時間議スル所アリ結局原案ニ同意シ多少過激ニ亘ルモノハ他ノ誤解ヲ招クカ如キ語句等多少修正ヲ為スコトニ決定

### 3 決議文

具体的の法案容易ニ一決セス結局左ノ趣旨ニ基キ西、中両連合分會長ニテ起案スルコトニ決定

イ 国家ノ團結ヲ鞏固ナラシムル為我國體ニ合セサル諸主義諸思想ヲ絶対ニ撲滅ス  
ロ 質実剛健ニ導キ國力ノ充実ヲ期ス  
ハ 尚武ノ氣風ヲ作興シ体力ノ向上ヲ期ス

#### 4 会ノ次第

日時 七月一日午後一時

## 神高秘收第六〇七四号

大正十三年六月二十五日

神奈川県知事 清野 長太郎

内務大臣 若槻 礼次郎殿

外務大臣 幣原 喜重郎殿

大蔵大臣 浜口 雄幸殿

警視總監 太田 政弘殿

大阪、京都、兵庫

福岡、長崎、愛知 各府県知事殿

税關監吏ノ米人船客待遇ニ關スル件

此他當日ノ会合ハ在郷軍人ニ限ルコト及在郷軍人ノ座右ノ銘トモスヘキ標語ヲ書ケル旗ヲ分會毎ニ一本宛作製セシム其標語ハ政治ニ關スルコト米貨排斥不買同盟等ニ関スル過激ノ文句ヲ絶対ニ避ケシメ極力軍紀ニ律セラルル在郷軍人ノ特色ヲ發揮スル文句ヲ選定セシムルコト尚軍服ヲ着用徽章ヲ佩用セシムルコト等ヲ定メタリ

清野神奈川県知事ヨリ  
若槻内務、幣原外務各大臣他宛

横浜税關監吏ノ米人ニ對スル嚴重検査ノ願末

二二一 六月二十五日

米國ニ於ケル排日移民法成立問題

三〇

察署ニ其ノ不法ヲ訴出テタルヲ以テ同署ニ於テハ一応彼等

ヲ宥ムルト共ニ此旨ヲ横浜税関ニ通知シタルニ即時監視君

第九七号

貴電第二五

吏拝命後日尚淺クシテ未夕事務ニ熟セス且職務熱心ノ余謾テ程度ヲ越ヘタル検査ヲ為シタルモノナルニ付請フ悪感情ヲ抱クナカラムコトヲ希望スト陳謝スル所アリタルニ彼等

モ之ヲ諒トシ釈然トシテ立去リタリ又右一行ト前後シテ同  
船ノ女ボーアイ米国人「エム、エー、スーサランド」外一名  
ノ同国人女ボーアイカ同伴シテ買物ノ為上陸シ前記ノ場所ニ  
於テ同様ノ検査ヲ受ケタリトテ帰船後大ニ憤慨シ居タル事  
実アリ前記黒田監吏ハ二年程以前一度横浜税関ニ監吏ヲ奉  
職シタルモ兵役關係ニ依リ退職シ更ニ本年四月頃再職セル  
モノノ由ニテ同僚其ノ他ノ評ニ拠レハ彼レハ軍人氣質ニテ  
或ハ対米問題ニ昂奮シ故ラニ前記ノ如キ処置ニ出テタルモ

ノニアラサルカト云ヘリ  
右及申（通）報候也

一一一 六月二十七日 币原外務大臣ヨリ  
在シヤトル大橋領事宛（電報）

大正十三年七

在

在南京

領事 林出 賢次郎 (印)

後七月一日ノ国旗事件ニ関シテハ別段ノ論評

米国ノ新移民法案制定ニ対シテハ当地言論界ハ概シテ冷静ノ態度ヲ採リ沈黙ヲ守リ居タル処日本内地ニ於ケル排米熱

日ニ昂スルノ報伝ハルヤ六月十九日大江南日報ハ日人ノ排  
米感言ト題シ左ノ如キ論評ヲ掲載致居候

米国大統領ノ新移民法案批准後日本ニ於ケル排米ノ声國中ニ逼ク米質貿乍下、勿論長国人ノ上塗ヲ禁上ノ或、往來

日本大使ヲ召還シ以テ絶交ノ意ヲ示サントスルモノスラ

アリ

其熱度我国ノ排日ニ數倍スルモ米人ハ未タ之ニ對シテ抗議ヲ提出シタルヲ聞カス日本政府モ亦國民ノ排米運動ニ

対シ干涉セルヲ聞カス此レ愛國ノ熱誠ヨリ出タル自衛的行動ハ諒トセサル可カラサレハナリ

回顧スレハ民国四年日本ノ提出セル二十一箇条ハ米国ノ  
新移民法案ニ数倍スル恥辱ヲ我ニ与ヘシモノニシテ其後  
我国民ハ自衛上已ムヲ得シテ排日ノ拳動ニ出テタルニ  
日本攻守ニ屢々抗義ヲ是出ノ文守モ不屢々国民ニ非

日本政府ノ屬ノ抗議ヲ提出シ我政府モ亦屬々國民ノ抗

一、米國二於ケル排日移民法成立問題

一一

夫レ排日案ハ華府會議ノ後ニ起リ平和ヲ転シテ排斥ト為ス此種極端ナル変動ハ日米間ニ惡劣ナル影響ヲ与フルノ

三一

# 一 米国ニ於ケル排日移民法成立問題 二二三

ミナラス必ス其ノ範囲ヲ拡大セン吾人亦之ニ無関心ナル

ヲ得ス云々

以上ノ如ク米国ノ新移民法ニ対スル日本ノ排米熱ニ対シテハ自國ノ排日運動ヲ肯定セシメントシ或ハ米国ニ氣兼シ充

分其ノ思フ所ヲ發表セサル如ク見受ケラルモ一部有識者ハ日本ノ國際上ニ於ケル地位ノ變化ハ直チニ自國ニ影響ス

ルヲ知リ本件成行ニ対シテハ大ナル注意ヲ払ヒ米国カ日本ノ震災直後ニ本法案ヲ制定セシニ対シテハ支那カ震災以来日本ニ多大ノ同情ヲ寄セ居ル關係上一般人モ米国ノ道徳的態度ニ疑ヲ挾ムニ至レリ

現ニ督軍ノ如キモ本件ニ關シ意見ヲ求メタル際歐米ニ道徳無ク文化無シト極言セリ

尚閣下發在支公使宛電報合第二一五号御訓令ノ件ニ關シテハ今日迄ノ處当管内居留民一同平靜ニシテ何等不穩ノ行為ニ出ツル者ナキモ今後共充分取締ニ注意スヘク尚別紙写ノ如ク当地及鎮江居留民会へ示達致置候間右併セテ及御報告候

本信写送付先 在文公使

(別紙)

敬具  
米國ノ排日的条項ヲ含ム移民法案制定以來我國民ノ激昂日本其ノ度ヲ加ヘ本月一日遂ニ在京米國大使館國旗奪取事件ヲ惹起セル次第ハ各位ニ於テモ既ニ御周知ノ處如斯輕躁ナル行動ハ勿論大局ヨリ見テ國家的ニ何等ノ利益ヲ齎ラサナル事ハ多年国外ニ在リテ國際的訓練ヲ経タル各位ノ知悉セラル處ト存候今回ノ事件ノ如キハ啻ニ國家的利益ナキナル事ハ多年国外ニ在リテ國際的訓練ヲ経タル各位ノ知悉セラル處ト存候今回ノ事件ノ如キハ啻ニ國家的利益ナキノミナラス從來我國民ノ採り来レル公正ナル態度ニ一汚点ヲ印セルモノト可申候

单二個人の一時ノ快ヲ貪ランカ為或ハ世間ノ喝采ヲ博サン力為メ敢テ不穩健ナル行動ニ出テ累々國家ニ及ボスカ如キハ嚴ニ之ヲ戒メサル可カラス各位ニ於カレテモ現下國際上ヲ印セルモノト可申候

本二個人の一時ノ快ヲ貪ランカ為或ハ世間ノ喝采ヲ博サン力為メ敢テ不穩健ナル行動ニ出テ累々國家ニ及ボスカ如キハ嚴ニ之ヲ戒メサル可カラス各位ニ於カレテモ現下國際上ヲ印セルモノト可申候

二於ケル帝国ノ地位ニ鑑ミ内地ノ排米情勢ニ刺激セラレ輕舉ニ出ツルカ如キコトナキ様切ニ自重セラレ度候此際我々在留邦人トシテハ常ニ大国民タル態度ヲ持シ深謀遠慮以テ

此ノ難局ニ善処シ輕躁ナル敵愾心ヲ戒シムルト共ニ一二去華就美國力ノ充実ヲ計リ他ハ友邦隣国トノ友好關係ヲ持続スル事最モ急務ト思考セラレ候

右及示達候也

一一四 八月三日

幣原外務大臣ヨリ  
在サン・フランシスコ大山總領事宛(電報)

黒龍会等反動團体ノ排米運動再開計画ニ關シ

在米日本人会へ内密ニ注意喚起方訓令ノ件

第九三号

頃日來ノ貴地方ニ於ケル所謂邦人迫害事件ヲ利用シテ当地黒龍会其他ノ反動團体ハ又々各種排米運動ヲ策シ居レル模様ニテ其手始トシテ來ル七日ヨリ五日間上野自治會館ニ於

テ排米演説会ヲ開催スル筈ナルガ彼等ハ此種運動ノ再開ハ貴地方邦人團体ノ慾憇ニ由ルガ如キ宣伝ヲナシ居レル趣ナルガ此種運動ハ結局在米邦人ノ不利益ヲ來スモノナルガ故

示第五号

大正十三年七月七日

在南京

領事 林出 賢次郎

南京 居留民会御中

鎮江

居留民会御中

三一二

一 米国ニ於ケル排日移民法成立問題 二二四 二二五

三一三

全然先方ノ「イニシアティヴ」ニ依ル様致シ度シ

二二六 八月六日(着) 在サン・フランシスコ大山總領事ヨリ  
幣原外務大臣宛(電報)

日本国内ニ於ケル排米運動ニ関シ在米邦人団体ヨリ日本国内ニ懲済セル事實ナキ旨報告ノ件

第二三六号

貴電第九三号及第九四号ニ関シ

本件ハ吾人ニトリ甚ダ遺憾ナル出来事ナルモ右ハ当国社会組織ノ欠陥ニ依リ屢々起ル普通ノ警察事故ニ過ギザルモノニシテ在留民ノ主ナルモノハ皆好ク之ヲ諒解シ居ル次第ナルモ当地日本人新聞通信員ガ最初本件ヲ聞込ムト同時ニ報道ノ迅速ヲ競ヒ何等真相ヲ調査セズ且世間ノ耳目ヲ引ク為誇大ニ報道シタルモノニシテ御賢察ノ通り当地日本人団体ガ日本ノ有志者等ト策応シテ何等運動ヲ計画セルガ如キコトハ毛頭ナキコトナリ依テ御来電ノ趣旨ヲ牛島ニ極秘ニテ内報シ全然日本人会ノ「イニシエチーブ」ニテ然ルベク電報セシムルコトト為シタル処恰モ過日牛島ヨリ時局救済ノ度シ

目的ニテ渋沢子爵ニ渡米ヲ懲済シタル處今回渡米不可能ノ旨回電アリタルニ付牛島ヨリ右ニ対シ更ニ答礼スル形式ニ

テ八月五日同子爵宛左ノ通り電報セリ

貴電諒承致方ナキヲ憾ム羅府及「ハップランド」ノ暴行ハ當国社会組織ノ欠陥ニ乘ズル普通ノ警察事故ニシテ所謂排日問題ト關係アルモノニアラザルニ付深ク顧慮スルノ要ナシ然レ共日本ニ於テ排米行為此上高マラバ其影響ハ真ニ重大ニシテ憂慮ニ堪ヘズ吾人ハ閣下及先輩ノ斡旋二期待ス

## 事項二 カリフォルニアニ於ケル日本人被害事件

二二七 六月二十一日 在サン・フランシスコ大山總領事ヨリ  
幣原外務大臣ヨリ  
在ロス・アンゼルス若杉領事宛(電報)

サン・ペドロニ於ケル日本人遭棄死体及ビロス・アンゼルス郊外在住日本人宅ヘノ暴徒來襲事件ニ付キ真相取調方訓令ノ件

合第一八八号 至急

二十日桑港發東京朝日特電ニ拠レハ〔二十日午前「サン・ペドロ」付近砲台ノ辺ニ於テ二名ノ日本人力打殺サレ居ルヲ発見セラレタル旨〕「ロス・アンゼルス」郊外「ベルヴデア」区居住邦人方ニ米人暴徒來襲シ私刑的暴行ヲ為サントシタル旨伝エラレ居ル處至急真相御取調ノ上回電アリ度シ

二二八 六月二十二日(着) 在サン・フランシスコ大山總領事ヨリ  
幣原外務大臣宛(電報)

日本人殺害及ビ暴徒來襲事件ニ關スル新聞情二 カリフォルニアニ於ケル日本人被害事件 二二七 二二八